

米国農務省海外農業局 (USDA Foreign Agricultural Service) GAIN (世界農業情報ネットワーク) 報告書より

1. クロアチアの乾燥豆類市場の概観 (Dried Beans 2014年8月30日)

要約

クロアチアでは、乾燥インゲンマメ消費量の2分の1以上を輸入している。2013年にクロアチアは5,782t、金額にして980万ドルの乾燥インゲンマメを輸入しており、その大部分が中国及びカナダからの輸入であった。米国の乾燥インゲンマメ輸出業者には、克蘭ベリー・ビーンの世界市場では市場占有率を争う機会があるし、米国産のピントー・ビーンを不足を補う銘柄または代替銘柄として提示する機会がある。クロア

チアは現在、EUの加盟国であることから、米国からの乾燥インゲンについては関税の義務はないことになっている。

市場状況

2013年にクロアチアは3,416tのインゲンマメを生産しており、このうち1,386tが商業的生産によるものであった。それ以外は自家用として家庭菜園で生産されたものである。大規模な商業的生産が行われていないのは、圃場の規模が小さく、インゲンマメ生産によって生産者が十分な収益を得られるだけの経済的規模が実現しないことによるものである。インゲンマメ生産には長

表1 クロアチアの乾燥豆類市場の利点及び課題

利点	課題
食糧及び飲料の分野は十分に発達しており、近代的な小売り及び流通網が全国的に整備されている。	輸送経費が高い。クロアチアの仕入れ業者は、高品質及び低価格を求める。クロアチアは価格に敏感な市場である。
大部分の輸入業者が英語を話す。	小売業者が米国製品をクロアチアに輸入することは稀である。EU加盟国を含む仲介的な仕入れ業者からの買い入れが一般的である。
米国はピントビーンの高品質で評価が高い。	EU27加盟国が市場への参入面で優遇されている。
都市部の人口が増加している。	消費者の関心はレッドスペックルド・ビーンに集中している。
米国から乾燥インゲンマメを無関税で輸出可能である。	EU加盟国であることから、米国の製品を他のEU加盟国から買い入れる方が安価となる場合がある。

年にわたって補助金が設けられていないことも、その一因となっている。

クロアチアは、価格について非常に敏感な市場である。消費者はなじみのある品物を購入する傾向があり、レッドスペックルド・ビーンは伝統的な料理によく使用される食材である。第二次世界大戦までは、各家庭でレッドスペックルド・ビーンが栽培されていた。このような生活習慣は過去のものとなったが、レッドスペックルド・ビーンへの嗜好は継続している。消費者は、色、粒の大きさ及び価格により購入するかどうかを決める。しかし、価格こそがすべてに優先される要素である。クロアチアは、克蘭ベリー・ビーンという1種類の銘柄を特に消費する市場である。その他の銘柄も缶詰及び乾燥品の袋詰めで入手可能ではあるが、量は極めて少ない。克蘭ベリー・ビーンが伝統的なインゲンマメであり、今日でも家庭菜園で栽培されたり、商業的に生産されたりして、国内で栽培されているが、その範囲はごく限られている。克蘭ベリー・ビーンは秋から冬の季節にはシチューの材料として、春から夏にはサラダの材料として使用される。市場で目にするのできるその他の乾燥インゲンマメとしては、アルビア種のホワイト・ビーン及びダークレッドキドニー・ビーンがあるが、極めて少量なので米国の輸出業者の興味の対象とはなりにくい。

市場の各分野における機会及び問題点

他のヨーロッパ諸国の市場とは異なり、

クロアチアにおける主要な買い手は小売チェーンそのものである。スーパーマーケット及び現金払い持ち帰りの販売店が独自の仕入れ部門を設けて、直接に輸入を行っている。乾燥袋詰め加工及び缶詰加工は下請け契約で行われている。

クロアチアには、インゲンマメに関しては国内に缶詰加工業界が存在しない。製品は、クロアチアのスーパーマーケット・チェーンの契約を受けたイタリアの缶詰加工業者によってイタリアで缶詰加工される。したがって、クロアチアのスーパーマーケット・チェーンでは自らの顧客に向けて缶詰加工されるインゲンマメの銘柄を管理することができず、缶詰の数量を注文するだけとなっている。缶詰加工製品は通常は「ボルロッチィ (borlotti) ・ビーン」(ボルロッチィ・ビーン、克蘭ベリー・ビーン及びピントー・ビーンを指す)、ホワイト・ビーン (アルゼンチンアルビア種 (Argentinean alubias) 並びにダークレッドキドニー・ビーンを使用して製造されている。

乾燥袋詰め製品が缶詰加工製品より多く使用されている。クロアチアの主婦は圧力鍋を使用するので、乾燥インゲンマメが経費及び時間の両面で効率的である。

輸出入

2013年にクロアチアでは5,782t、金額にして980万ドルの乾燥インゲンマメを輸入しており、主に中国及びカナダからの輸入であった。景気が後退しているにも関わら

表2 クロアチアのキドニービーン輸入状況
(ホワイトピー・ビーンを含む。莢を取り除き乾燥した製品、種子用を含む)

輸入相手国	輸入額 (米ドル)			占有率 (%)			変化率 (%)
	2011	2012	2013	2011	2012	2013	2013/2012
世界全体	7,246,709	8,407,039	9,759,682	100.00	100.00	100.00	16.09
中国	4,233,452	5,209,759	6,996,537	58.42	61.97	71.69	34.30
カナダ	1,465,139	1,552,287	1,566,040	20.22	18.46	16.05	0.89
イタリア	479,640	386,116	383,286	6.62	4.59	3.93	-0.73
アルゼンチン	456,477	840,497	277,246	6.30	10.00	2.84	-67.01
キルギスタン	139,281	61,682	129,794	1.92	0.73	1.33	110.43
ペルー	55,757	86,581	87,553	0.77	1.03	0.90	1.12
チェコ共和国	0	0	85,230	0.00	0.00	0.87	0.00
ウルグアイ	18,456	0	71,742	0.25	0.00	0.74	0.00
米国	263,583	51,609	50,158	3.64	0.61	0.51	-2.81
スロベニア	63,448	84,992	29,751	0.88	1.01	0.30	-65.00
マケドニア	0	0	28,138	0.00	0.00	0.29	0.00
タンザニア	34,918	37,242	12,519	0.48	0.44	0.13	-66.38
ドイツ	0	0	9,355	0.00	0.00	0.10	0.00
エジプト	202	62,816	9,331	0.00	0.75	0.10	-85.14
ハンガリー	18,260	13,344	8,119	0.25	0.16	0.08	-39.16
オランダ	9,710	9,661	4,705	0.13	0.11	0.05	-51.30
スロバキア	0	160	4,306	0.00	0.00	0.04	2,597.90
チリ	750	4,334	3,745	0.01	0.05	0.04	-13.60
インド	0	0	947	0.00	0.00	0.01	0.00
エチオピア	5,380	2,119	566	0.07	0.03	0.01	-73.30
トルコ	0	0	402	0.00	0.00	0.00	0.00
ボスニア ヘルツェゴビナ	0	0	214	0.00	0.00	0.00	0.00
イラン	0	26	0	0.00	0.00	0.00	-100.00
ミャンマー	2,257	1,117	0	0.03	0.01	0.00	-100.00
セルビア	0	2,698	0	0.00	0.03	0.00	-100.00

ず、乾燥インゲンマメの輸入量は2012年に比べて16%増加した。クロアチアは、主に中国、カナダ及びアルゼンチンからクランベリー・ビーン系の乾燥インゲンマメを輸入している市場である。しかし、米国の乾燥インゲンマメ輸出業者には、クランベリー・ビーン市場での市場占有率をめぐる競争に参加したり、米国産ピントー・ビーンを、従来使用されている銘柄の品不足を補ったり、代替として使用できる銘柄として提案する機会がある。クロアチア（人口450万人）の乾燥インゲンマメ輸入市場の規模は、5,000tと推定されている。

輸入手続き

輸入される品物は輸送ターミナルまたは空港の関税倉庫を通過する必要がある。品物が関税倉庫に到着したのちに、輸入業者または貨物運送業者がクロアチアの関税当局に輸入関税申告書類を提出し、品物の検査及び確認といった通関手続きを開始する。手続きは、防疫検査所（the Sanitary Inspection）での品物の検査から始まる。随時、サンプルを採取して食品安全検査が行われる。品質及び健康基準に疑いの生じた品物については、分析がすむまで販売が禁止される。通関手続き及び関税倉庫からの搬出に際しては、税関職員が防疫検査のすんだ品物と通関書類を照合して監視する。輸入の手続きに関して、輸出業者にとって最も重要な事は、信頼できる貨物輸送業者または友好的で信頼できる取引相手（あるいは、その両方）の存在である。

輸入の要件

クロアチアはEU加盟国であり、EU諸国内では市場を共有し、関税を設けていない。クロアチアでの輸出入は、EUの規定に従って行われる。

2. トルコの豆類生産と市場の概観 (Turkish Pulses Market Overview 2016年2月3日)

要約

トルコの豆類生産量及び作付面積は、長年にわたって減少を続けてきており、特に最近10年間はその傾向が著しい。しかし、トルコ政府はレンズマメ生産に対する支援を増加してきており、2016市場年度にはレンズマメ作付面積が増加するに至った。当局の推定によれば、トルコの2015市場年度のレンズマメ生産量は35万tであり、2016市場年度の生産量の予測は36万tとなる見込みである。国内需要及び再輸出の需要が強まっていることにより、トルコのレンズマメ輸入が促進されている。トルコのレンズマメ輸入業者は、菜種など、他の農産物に由来する低水準のバイオテクノロジー物質夾雑物が含まれていたことに起因する輸送拒否の影響を受けた。

豆類生産の概要

乾燥エンドウマメ、ヒヨコマメ、乾燥インゲンマメ、レンズマメ及びカウピー（ササゲ）がトルコで一般的に使用される豆類であって、レンズマメ及びヒヨコマメが多く使用されている。豆類、特にレンズマメ

がトルコの伝統的な料理によく使われる。トルコの豆類生産量及び作付面積は長年にわたって減少してきており、特に2004年から2014年にかけて減少が著しかった。生産量の減少が最も大きかったのが赤色レンズマメで、減少率は67%であり、緑色レンズマメの減少率は32%、ヒヨコマメの減少率は27%であった。2004年の豆類総生産量は140万tで、1990年代の生産量約200万tに比べて減少していた。豆類総生産量は2014年には100万tであり、この値は2004年に比べて40%の減少となっている。作付面積は通常は種子の入手状況、前年の収穫分の価格及び割増金、天候条件、肥料の価格、病害の状況等に応じて変化する。作付面積減少のもうひとつの理由は、灌漑条件が改善するにつれて、生産者がより労力が少なくてすむトウモロコシ、綿花及びテンサイといった作物に移行していることである。

ヒヨコマメは、トルコで生産されている最も一般的な豆類であり、トルコの豆類総

生産量の44%を占めている。ヒヨコマメは、アナトリア地方のほぼ全域で栽培可能である。ヒヨコマメの主要生産地域は、中央アナトリアではコンヤ、カラマン、コラム及びヨツガート、南アナトリア及び西アナトリアではメルシン、アンタルヤ、クタヤ及びウサクである。

レンズマメはトルコの豆類総生産量の33%前後を占めている。2014年のレンズマメ総生産量は約34万5,000tであって、そのうち95%が緑色レンズマメ、残りの5%が赤色レンズマメである。南東アナトリアのGAP（南東アナトリア・プロジェクト）地域では伝統的に赤色レンズマメが栽培されている。中央アナトリアのコラム、ヨツガート、アンカラ、キルセヒル及びコンヤでは、トルコの緑色レンズマメ総生産量の50%以上が生産されている。

政府当局の推定によれば、2015市場年度のレンズマメ生産量は35万tの見込みであり、2016市場年度は36万tと予測されている。作付面積がかなり増加しているにも

表3 トルコの豆類の作付面積と生産量

作目	2004		2014	
	作付面積 (ha)	生産量 (t)	作付面積 (ha)	生産量 (t)
エンドウマメ	1,350	3,500	1,149	2,987
ヒヨコマメ	604,290	620,000	388,169	450,000
インゲンマメ	154,730	250,000	90,450	215,000
レンズマメ (緑)	379,000	480,000	226,336	325,000
レンズマメ (赤)	59,990	60,000	17,034	20,000
カウピー (ササゲ)	2,900	2,300	1,941	2,006
ホースビーン	9,930	20,000	3,227	6,971
合計	1,212,190	1,435,800	728,306	1,021,964

資料：トルコ統計研究所

関わらず、冬季の生育条件が思わしくなかったことから、2016市場年度には単位面積当たり収穫量（単収）が低下する可能性がある。3月末及び4月に降雨があるかどうか、レンズマメ生産量の動向を決定する要因となる。

政策

国営企業であるトルコ穀物委員会（the Turkish Grain Board）は、穀物市場に対しては相当な影響を及ぼす立場にあるが、豆類市場では活動的でない。食料農業畜産省（the Ministry of Food, Agriculture and Livestock（MinFAL））は、生産量不足及び高価格について批判されてきたが、2015年初めに豆類生産の促進を目的として豆類の割増金を2倍にした。MinFALは2009年に100トルコリラ/tの割増金を導入し、2015年には200トルコリラ/tに増加した。このような高額な豆類割増金が、2016市場年度のレンズマメ作付面積の増

加に結びついた。

2005年から2015年までのレンズマメ生産量及び収穫面積の推移をグラフに図示した。最近10年間のデータによれば、レンズマメ生産量は65万tから35万tへ減少しており、収穫面積の減少もこれと並行している。

輸出入

トルコでは、まずカナダからレンズマメを輸入し、それを中東諸国及びアフリカ諸国へ輸出している。イラク、スーダン、エジプト及びサウジアラビアがトルコからの主な輸出先である。豆類総輸出量の2分の1以上が上記の4カ国へ送られている。2015市場年度始めの5カ月間の豆類輸出量は9万2,761tであって、2014市場年度同時期の6万0,092tに比べて増加している。トルコの輸出業者は国際的な食料支援の供給元ともなっており、食料支援には主に小麦粉が使用されているが、場合によっては豆

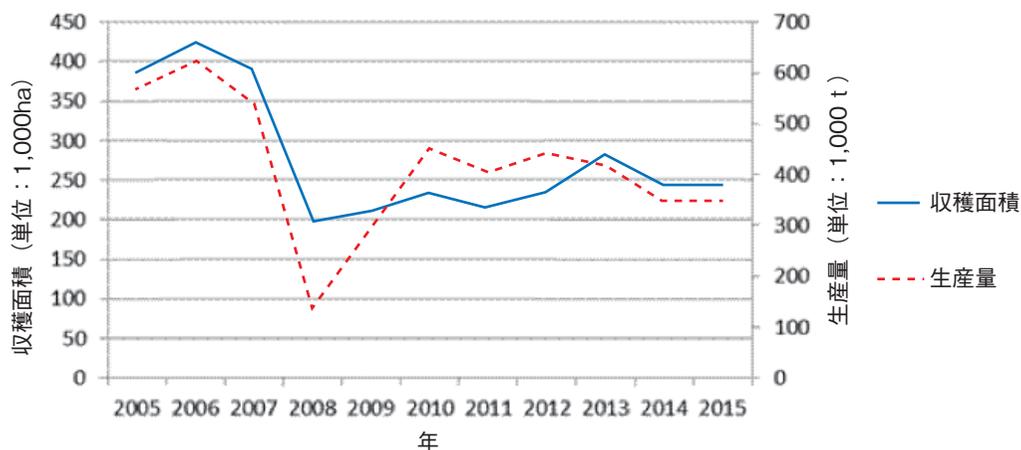


表4 レンズマメ生産量の推移

類が使用されることがある。トルコ国内での単収の向上及び相手国の需要の高まりにより、レンズマメの輸出量は2014市場年度に増加しており、2015市場年度にはさらに増加する見込みである。

トルコは2014市場年度に32万5,323tのレンズマメを輸入した。2015年7月から11月までの期間にトルコでは10万5,717tのレンズマメを輸入したが、この値は2014市場年度の輸入量（2014年7月から11月までの期間に10万6,079t）とほぼ同じであった。

2014市場年度の輸入量のおよそ75%が輸入物取扱機構（the inward processing regime（IPR））を通して輸入された。トルコの農産物輸出業者の多くがIPRの恩恵を受けている。IPRが存在することで、トルコの輸出業者は再輸出を目的に輸入するレンズマメを関税ゼロで輸入することができる。つまり、トルコでは、2014市場年度に輸入したレンズマメの75%を再輸出したということになる。

トルコでは遺伝子操作（GE）の食料へ

表5 トルコのレンズマメ輸出入状況

	2012市場年度 (t)	2013市場年度 (t)	2014市場年度 (t)	2012市場年度 (t)	2013市場年度 (t)	2014市場年度 (t)
7月	3,396	15,467	19,772	20,991	20,726	14,519
8月	1,595	5,353	17,997	17,245	10,344	8,033
9月	6,605	4,961	20,771	16,206	11,226	10,003
10月	17,341	17,566	17,491	14,311	11,140	13,138
11月	9,791	34,546	33,048	14,300	21,175	14,399
12月	9,290	42,769	49,262	12,339	18,273	22,267
1月	13,712	20,778	50,354	15,630	13,507	22,998
2月	8,973	26,210	42,084	11,407	13,510	20,020
3月	8,544	19,919	17,403	11,869	17,492	14,537
4月	22,457	49,786	31,864	8,440	24,100	13,002
5月	18,773	17,779	13,005	12,426	17,668	15,306
6月	9,355	13,341	15,270	25,887	14,779	19,117
合計	129,832	268,475	328,321	181,051	193,940	187,339

資料：GTA

表6 トルコのレンズマメ輸入状況

供給元国名	2012市場年度 (t)	2013市場年度 (t)	2014市場年度 (t)	2015市場年度 (t)
カナダ	114,995	255,119	308,950	99,838
オーストラリア	1,063	2,196	5,729	1,963
ロシア	8,069	1,385	3,445	629
米国	2,833	2,802	3,018	1,450
その他	2,903	3,840	4,220	1,837
合計	129,863	265,342	325,362	105,717

*2015年は7月から11月

資料：GTA

の利用をまだ承認していない。したがって、レンズマメの輸出入に際してGEによる生産物が検出された場合には、生物工学的安全法に違反したことになる。この法律では、承認されていない生産物が検出された場合に、厳重な禁固刑及び罰金を課している。トウモロコシまたは菜種といった他の作物の粉末と言っているような夾雑物の低水準の混入であっても、違反とみなされる。2015年には、未承認のバイオテクノロジー技術処理をした物質の検出により、輸出入業者が取り扱いを拒否され、重大な経済的損失を被った。

消費

トルコでのレンズマメ年間消費量は、国民一人当たり約5kgである。赤色レンズマメの価格は、2015年1月初めには2.6トルコリラ/kgであり、2016年1月には約4.5トルコリラ/kgであった。市場関係筋によれば、トルコリラの切り下げの影響と、それより影響の程度は少ないが、輸入規制の実施状況が一貫性を欠いていることが、このような価格上昇につながっているとのことである。

第68回国連総会で、2016年は国際マメ年 (the International Year of Pulses (IYP)) とするとの宣言がなされた。2016国際マメ年の目標は、豆類の栄養面の長所及び豆類が継続可能な食料生産に果たす役割についての認識を高めることにある。2016国際マメ年の一環として、世界各地で豆類を奨励するための特別な催しが行わ

れる。トルコでもこのような催しが続いて開かれることになっており、第15回国際穀物パン会議 (第15回ICBC)、世界豆類コンベンション並びにFAOヨーロッパ地域会議 (ERC) が開催される。2016国際マメ年の催しの一覧については、<http://www.fao.org/pulses-2016/events/en/>を参照されたい。

3.2015年ミャンマーの豆類の輸出入 (Beans and Pulses Trade 2015 2016年2月24日)

要約

ミャンマーは、2015年度に前年度に比べて25%増の154万tの豆類を輸出したが、これはインドからの需要が強まったことによるものである。輸出需要が強かったことから、2015年度にはインゲンマメ全銘柄、特にマッペ (Matpe、ケツルアズキ) 種の国内価格が上昇した。供給量が減少し、マッペ種の種子に対する需要が高まったことから、マッペ種の価格は、2015年11月に過去最高記録となった。

輸出入

ミャンマーの豆類輸出には、主に海運を利用した公的輸出と、国境を越える陸運を利用した非公式の輸出 (主な輸出先はインド及び中国) がある。ミャンマーは、2015年度 (1月から12月) に154万tの豆類を輸出した。商業省によれば、2015年度の豆類総輸出量の約80%がインドへ送られた。ブラックマッペ (Black Matpe)、緑豆

(Green Mung) 及びツールホール (Toor Whole、キマメ) といった銘柄の豆類が輸出量の80%を占めている。

インドへの豆類の公的輸出量は、2015年5月に20万t近くに達したが、これはインド南部及び西部の雨季の遅れを懸念して、インド政府当局がミャンマーからの輸入量を増やしたことによるものである。インドで新物の豆類の供給が始まって市場に出回ると、豆類輸出量は9月及び10月に徐々に減少した。

ミャンマーからインドへの国境越しの豆類総輸出量は、2015年度には284,262tであった。

市場状況

特にインド及び中国への輸出需要が強かったことで、2015年度には豆類全品種の国内価格が急激に上昇した。マンダレイ市場 (国内最大の豆類市場) でのマッペ種

の価格は、1月から11月まで上昇を続け、国内供給量が減少する一方で播種用のマッペ種の種子の需要が高まる10月には、過去20年間の最高価格の1,640米ドル/tに達した。

ツールホール種の国内価格もまた2015年度に上昇し、8月及び9月にはマッペ種の価格を上回った。最終的には、新物の供給が始まり国内市場に出回った12月に価格が低下した。緑豆の国内価格もわずかに上昇した。

輸出の見通し

ミャンマーの2015年度の豆類輸出量は154万tで、前年度同時期に比べて25%の増加であった。新物の供給が始まり国内市場に出回ったことから、豆類輸出量は2016年1月及び2月にはさらに増加する見込みである。

表7 ミャンマーの豆類月別輸出状況 (2014及び2015年 単位：t)

月	2014			2015		
	海運	陸運	合計	海運	陸運	合計
1月	75,197	8,942	84,139	81,183	12,247	93,430
2月	90,314	13,382	103,696	98,344	22,439	120,783
3月	170,803	25,957	196,760	370,779	67,383	438,162
4月	88,852	9,706	98,558	131,609	20,493	152,102
5月	142,999	24,242	167,241	197,287	23,290	220,577
6月	68,893	28,892	97,785	134,363	22,141	156,504
7月	69,229	41,014	110,243	64,526	24,207	88,733
8月	69,498	11,910	81,408	71,553	23,441	94,994
9月	57,217	9,065	66,282	29,936	7,126	37,062
10月	48,900	8,821	57,721	31,319	4,273	35,592
11月	75,998	6,378	82,376	18,543	4,221	22,764
12月	72,091	11,511	83,602	5,639	71,553	77,192
合計	1,029,991	199,820	1,229,811	1,235,081	302,814	1,537,895

資料：商業省、ミャンマー税務部

(参考) 2015年12月為替レート：1米ドル=1,295チャット

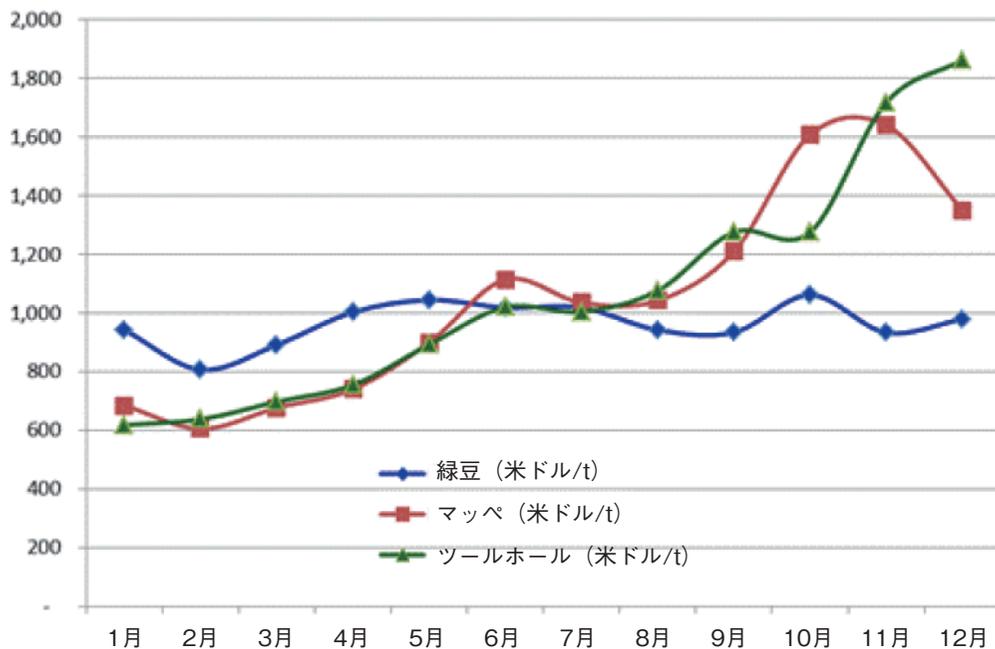


表8 2015年の月別公式輸出価格の推移
 資料：商業省、ミャンマー税務部、中央統計機構

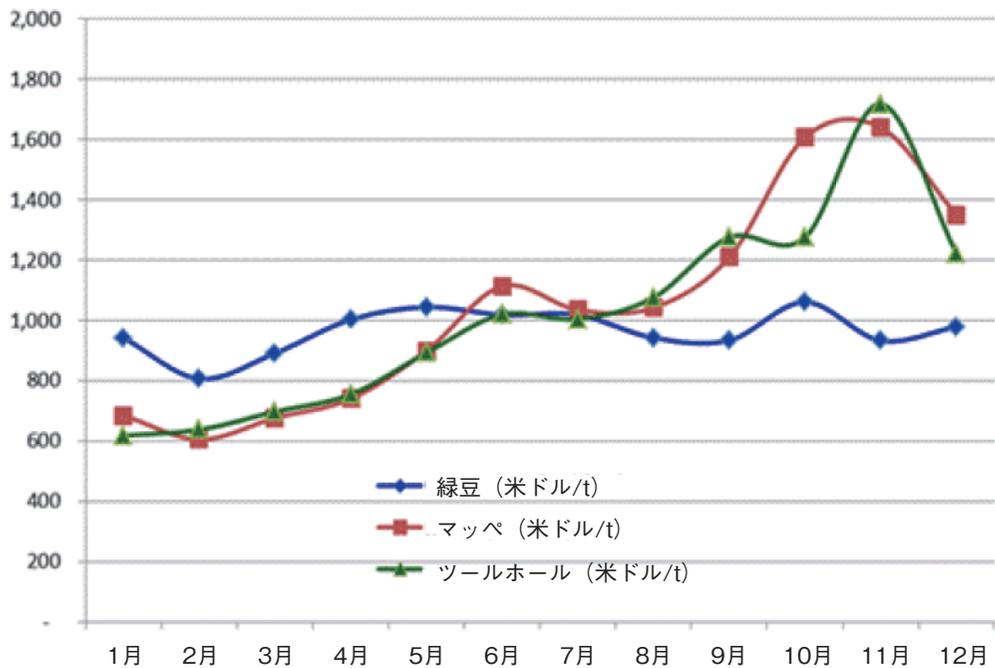


表9 2015年の豆類月別価格の推移 (単位：米ドル/t)
 資料：『商業ジャーナル』
 注：価格はマンダレイ農産物取引センター調べ